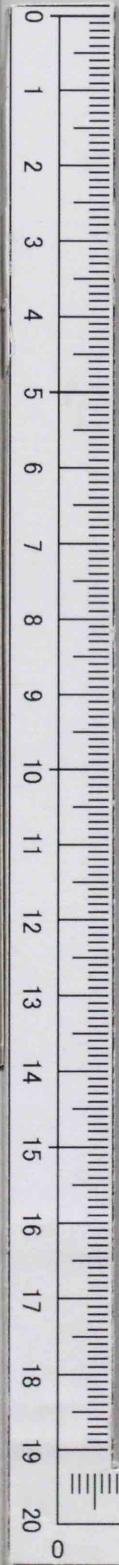
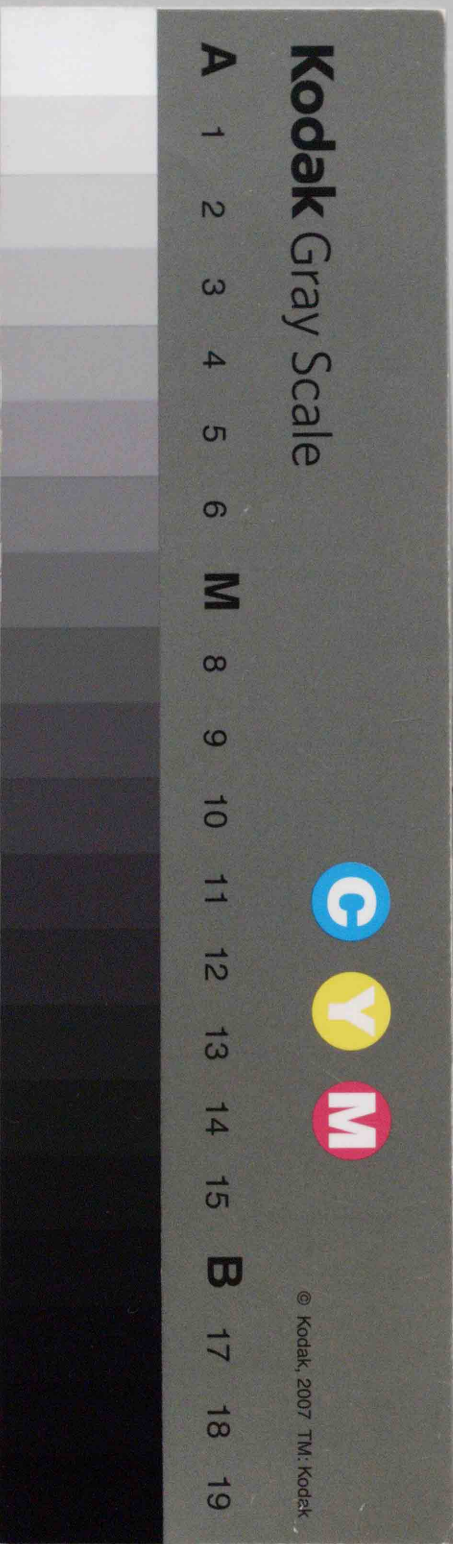
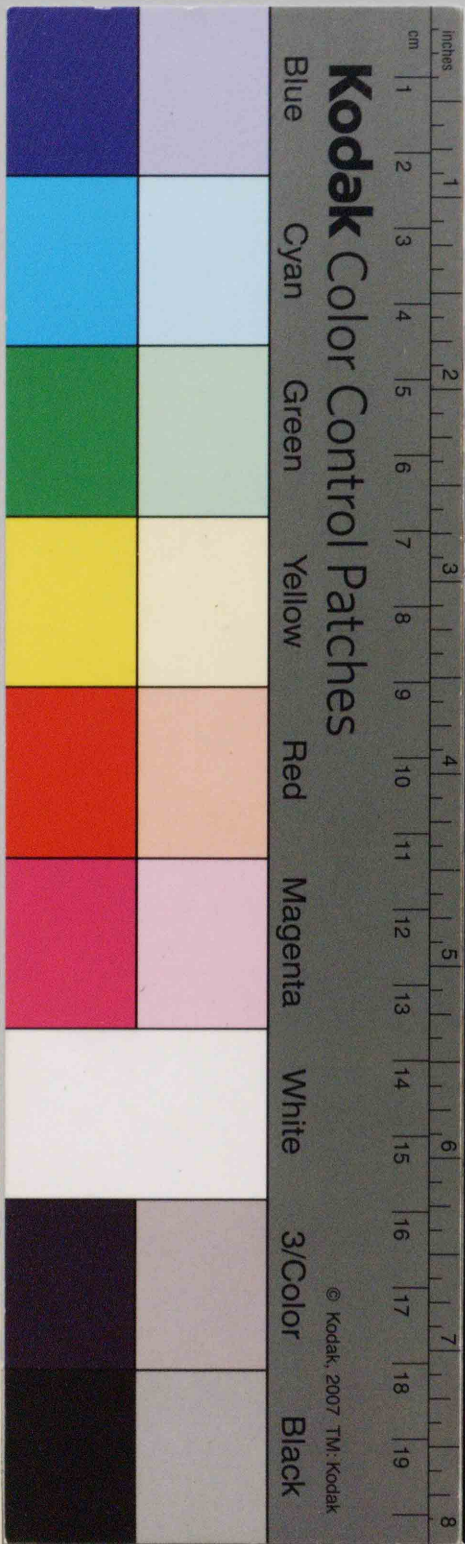


40359

教科書文庫

4
760
31-1932
01305 49408

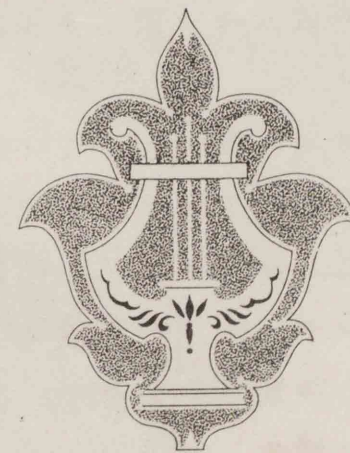




中央図書館

新訂
尋常小學唱歌

伴奏附
第三學年用



文部省

広島大学図書

0130449408



緒 言

- 一、本書ハ音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、從來本省著作ニ係ル「尋常小學唱歌」ニ改訂ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本書ハ每卷二十七章トシ、取扱者ニ選擇ノ餘地ヲ與ヘタリ。
- 三、本書ノ歌詞ハ、舊歌詞中ノ適切ナルモノ、新作ニ係ルモノ、及ビ尋常小學國語讀本・尋常小學讀本中ノ韻文ノ一部ヨリ成ル。
- 四、本書ノ歌詞ハ努メテ材料ヲ各方面ニ採リ、文體・用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 五、本書ノ教材排列ハ強ヒテ程度ノ難易ノミニヨラズ、一面季節ニツキテモ考慮セリ。
- 六、本書ハ取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類ヲ作製セリ。教授ニ際シテハ其ノ何レヲ採用スルモ可ナリ。
- 七、伴奏附ノ樂譜ヲ使用スル場合ニハ、前奏・後奏ノ如キハ時トシテ省略スルモ可ナリ。

昭和七年四月 文 部 省

目 次

一 春が来た	2
二 かがやく光	4
三 摘草	6
四 木の芽	8
五 茶摘	10
六 青葉	12
七 螢	14
八 汽車	16
九 燕	18
一〇 虹	22
一一 夏休	24
一二 波	26
一三 噴水	28
一四 蟲のこゑ	32
一五 村祭	34
一六 鶉越	36
一七 雁がわたる	38
一八 赤とんぼ	42
一九 取入れ	46
二〇 麥まき	50
二一 日本の國	52
二二 飛行機	56
二三 豊臣秀吉	60
二四 冬の夜	62
二五 川中島	64
二六 私のうち	66
二七 かぞへ歌	68

春が来た

♩ = 120

春が来た

一 ハルガキタ ハルガキタ トコニキタ
 二 はながさく はながさく どこにさく
 三 トリガナク トリガナク トコデナク

ヤマニキタ サトニキタ ノニモキタ
 やまにさく さとにさく のにもさく
 ヤマデナク サトデナク ノデモナク

春が来た

一、春が来た
 二、春が来た
 三、春が来た

春が来た
 春が来た
 春が来た

春が来た
 春が来た
 春が来た

春が来た
 春が来た
 春が来た

春が来た
 春が来た
 春が来た

春が来た
 春が来た
 春が来た

かがやく光

♩ = 104

かがやく光

— ミ ユ ミ ノ ハ ズ ニ キ ン イ ロ ノ ト ビ
ニ む かし の ひ かり い ま も そ の ま ま

カ ガ ヤ ク ヒ カ リ キ ラ キ ラ ビ カ ビ カ
む ー ね の く ん し ゃ う き ら き ら び か び か

マ ー ナ コ ク ラ ン テ ニ ゲ ユ ク ワ ル モ ノ
ほ ー ま れ か が や く に つ ほ ん ぐ ん じん

四

かがやく光

二、かがやく光

一、御弓の弭に

金色の鵺

かがやく光

眼くらんで逃行くわるもの。

二、昔の光

今もそのまま

むねの勳章、きらきら、
びかびか。

響かがやく日本軍人。

五

摘 草

摘
草

♩ = 100

一ノベハハルカーゼ ソ ヨソヨ フ イ テ
ニそらはみづいーろ う らうら は れ て

ツ ク シ ツ イ ツ イ ヨ メ ナ モ マ ジ ル
た ーど る た ん ほ に ね ぜーり も あ を む

六

摘
草

ヒ ト ツ ミ ツ ケ タ ス ミ レ ヲ ツ メ バ
た ーも と ぬ ら し て み つ よ つ つ め ば

カ ゴ ニ ム ラ サ キ ハ ル ノ イ ロ
は ーる の か がーす る づ び の さ き

指^{ゆび}の^の先^{さき}が^がす^する^る、
春^{はる}の^の香^かが^がつ^つす^すめ^めば^ば
三^{さん}つ^つぬ^ぬら^らし^しめ^めば^ば
根^ねの^の芹^{せり}も^もら^らし^しめ^めば^ば
た^たら^らし^しめ^めば^ば
う^うら^らし^しめ^めば^ば
空^{そら}は^は水^{みづ}色^{いろ}
春^{はる}の^の籠^{かご}に^にみ^みれ^れら^らし^しめ^めば^ば
一^{ひと}つ^つめ^めな^ない^いて^て
よ^よつ^つめ^めな^ない^いて^て
土^{つち}の^の筆^{ふで}は^はい^いて^て
そ^その^のよ^よは^はい^いて^て
野^の邊^へは^は春^{はる}の^の風^{かぜ}が^が吹^ふいて^{いて}

三 摘 草

七

木の芽

♩=80

木の芽

— ユフ — ベノ アメデ ウマレタカ
ニひにひにのびるきのしんめ

ケ サノヒ カーリーデソダ ッタカ
はるのちからをみにうけて

ア カヤミ ドーリーヤサーマ—ザマノ
あかもみど—り—もい—つ—しかに

木の芽

イ ロウツクシイ キノシンメ
みなうつくしいはとなるよ

四、木の芽

一、昨夜の雨で生まれたか、

今朝の光で育つたか、

赤や緑やさまざまの

色美しい木の新芽。

二、日に日に延びる木の新芽、

春の力を身に受けて、

赤も緑もいつしかに

皆美しい葉となるよ。

茶 摘

茶
摘

♩=104

一 ナ ッ モ チ カ ヅ ク
二 ひ よ り つ づ き の

ハ チジフー ハ チ ヤ ノ ニ モ ヤ マ ニ モ
けふ ー この ご ろ を こ こ ろ の ど か に

ソ カ バ ガ シ ゲ ル ア レ ニ ミ エ ル ハ
つ み つ つ う た ふ つ め よ つ め つ め

茶
摘

チヤ ツ ミ チヤ ナ イ カ ア カ ネ タ ス キ ニ
つ ま ね ば な ら ぬ つ ま に や に ほ ん の

ス ゲ ノ カ サ
ちやにならぬ

五、茶 摘

一、夏も近づく八十八夜、

野にも山にも若葉が茂る。

「あれに見えるは

茶摘ぢやないか。

あかねだすきに菅の笠。」

二、日和つづきの今日此の頃を、

心のどかに摘みつつ歌ふ。

「摘めよ、摘め摘め、

摘まねばならぬ、

摘まにや日本の茶にならぬ。」

青葉

青
葉

♩ = 100

一 アメガヤム クモガチル
ニカゼガフク キガユレル

クモノアトニ ウネウネト
キギのかけは ヨラヨラト

アラバソカバノ ヤマヤマガ
みづのおもてに ちのうへに

二二

青
葉

トホク チカク ノ コル
あをく くろく う つる

一、雨^{あめ}がやむ、
雲^{くも}が散^ちる。
雲^{くも}の^うに^ねう^ねと、
青^{あお}葉^は若^{わか}葉^はの^う山^{やま}山^{やま}が、
遠^{とほ}く^か近^{ちか}く^か残^{のこ}る。
風^{かぜ}が吹^ふく、
木^きが揺^ゆれ^る。
木^きの影^{かげ}は^らゆ^らと、
水^{みづ}の^う上^{うへ}に^ゆら^らと、
青^{あお}く^く黒^{くろ}く^く映^{うつ}る。

六、青葉

二三

螢

♩ = 84

螢

Musical notation for the first system on page 14, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the second system on page 14, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the third system on page 14, including vocal line and piano accompaniment.

螢

Musical notation for the first system on page 15, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the second system on page 15, including vocal line and piano accompaniment.

七、螢

- 一、螢のやどは川ばた楊
楊おぼろに夕やみ寄せて、
川の目高が夢見る頃は、
ほ、ほ、ほたるが灯をとます。
- 二、川風そよぐ、楊もそよぐ、
そよぐ楊に螢がゆれて、
山の三日月隠れる頃は、
ほ、ほ、ほたるが飛んで出る。
- 三、川原のおもは五月の闇夜、
かなたこなたに友よび集ひ、
むれて螢の大まり小まり、
ほ、ほ、ほたるが飛んで行く。

汽 車

汽
車

♩ = 92

一 イ マ ハ ヤ マ ナ カ
二 と ほ く に み え る
三 マ ハ リ ドウ ロウ ノ

イ マ ハ マ イ マ ハ テツ ケツ
む ら の や ね ち か く に み え る
エ ノ ヤ ウ ニ カ ハ ル ケ シ キ ノ

ソ ター ル ズ ト オ モ フ マ モ ナ ク ト ネ ル
ま ち の の き も り や は や し や た や は た
オ モー シ ロ サ ミ ト レ テ ソー レ ト シ ラ マ

汽
車

ノ ヤ ミ ヲ ト ホ ツ テ ヒ ロー ノ ハ ラ
け あ と ヘ あ と ヘ と と ん て い く
ニ ハ ヤ ク モ スー キ ル イ クー ジ フー リ

八、汽 車

一、今 は 山 中、今 は 濱
今 は 鐵 橋 渡 る ぞ と、
思 ふ 間 も 無 く、ト ン ネ ル の
開 を 通 つ て 廣 野 原。

二、遠 く に 見 え る 村 の 屋 根、
近 く に 見 え る 町 の 軒。
森 や 林 や 田 や 畠、
後 へ 後 へ と 飛 ん で 行 く。

三、廻 り 燈 籠 の 晝 の や う に
變 じ る 景 色 の お も し ろ さ。
見 と れ て そ れ と 知 ら ぬ 間 に
早 く も 過 ぎ る 幾 十 里。

燕

0

♩ = 112

燕

Musical notation for the first system on page 18, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the second system on page 18, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the third system on page 18, including vocal line and piano accompaniment.

一八

燕

Musical notation for the first system on page 19, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the second system on page 19, including vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the third system on page 19, including vocal line and piano accompaniment.

一九

九、燕

一、町のはづれの電線に

友まぢがほの

つばくらめ、

潮路はるばる越えて来た

旅の仲間は何處にゐる。

山は夕日が赤く照る。

二、右に左に身をかはし、

餌をさがしゆく

つばくらめ、

家におした子つばめは

母のかへりを待っているよう。

山で夕の鐘が鳴る。

虹

虹

♩ = 72

ニ = ジ ガ デ タ ニ ジ ガ デ タ
ニ に じ が で た に じ が で た

ソ ラ ヲ イ シ ヲ ニ ミ タ テ タ ラ
そ ら を い ち め ん み づ と み て

ナ ナ ツ ノ イ ロ ニ ソ メ ワ ケ タ
さ ん ご や る り を ち り ば め た

虹

ダ ン タ ラ モ ヤ ウ - ハ デ モ ヤ ウ -
て ん に よ の は し よ た ま の は し

一、虹が出た、
空を衣裳に見立てたら、
七つの色に染分けた、
だんだら模様、はて模様。

二、虹が出た、
空を一面水と見て、
珊瑚や瑠璃をちりばめた
玉の橋よ、

三、虹が出た、
空を一面水と見て、
珊瑚や瑠璃をちりばめた
玉の橋よ、

夏 休

♩ = 56

夏
休

一 ア ス カ ラ ウ レ シ イ ナ ツ ヤ ス
 二 あ す か ら う れ し い な つ や す
 三 ア ス カ ラ ウ レ シ イ ナ ツ ヤ ス
 四 あ す か ら う れ し い な つ や

ラ リ セ セ
 ズ ヨ カ ヤ
 ホ ラ サ チ
 オ シ ア ウ
 タ ニ ガ ミ
 レ ベ マ ナ
 ハ ノ コ コ
 シ ク ノ ミ
 シ ベ バ ナ
 プ マ キ ホ
 マ ヤ マ オ
 ミ ミ ミ

四二

夏
休

ニ カ ニ テ
 マ ヨ イ ワ
 シ メ ナ タ
 ロ ミ ナ シ
 イ ル キ を
 ク ヤ ナ ウ
 モ ー ガ ミ
 ガ ニ ラ ガ
 ウ さ ヨ マ
 イ い シ ツ
 テ テ テ
 キ ム キ ム

ル ル ル

二、夏 休

- 一、明日から嬉しい夏やすみ、
まぶしく晴れた大空に
真白い雲が浮いてゐる。
- 二、明日から嬉しい夏やすみ、
山邊に野邊に白百合が
夢見るやうに咲いてゐる。
- 三、明日から嬉しい夏やすみ、
牧場の駒が朝風に
嘶きながら呼んでゐる。
- 四、明日から嬉しい夏やすみ、
大波小波打寄せて、
わたしを海が待つてゐる。

二五

波

波

♩ = 108

一 アヲ イ ヲ ネ リ ナ ミ ノ ヲ ネ リ
ニ を ど る を ど る な み が を ど る

mp
con Xeo.

イ キ テ ル ヤ ウ ニ ヨ ヲ ヲ テ キ テ タ
い き て る や う に よ せ て き て き

mf *p*

ヒ ラ ナ ハ マ ニ マ ツ シ ロ ナ ヌ ノ ヲ シ ク
り た つ い は に ち る な み は た き の や う

波

カ モ メ ガ ト シ デ ウ ミ ハ ノ ト カ
か も め が な い て う み は さ け ぶ

f *p*

一、青いうねり、波のうねり、生きてるやうに寄つて来て、
平らな濱に
真白な布をしく。
かもめがとんで、
海はのどか。

二、をどる、をどる、
波がをどる、
生きてるやうに寄せて来て、
きりたつ岩に
散る波は瀧のやう。
かもめが鳴いて、
海は叫ぶ。

三、波

噴 水

♩ = 84

噴
水

First system of music on page 28. The vocal line is mostly rests. The piano accompaniment starts with a *p* dynamic and includes a *poco rit.* section. There are two *Rea* markings with asterisks in the bass line.

一 キ シ ヤ キ シ ニ カ ガ ヤ イ テ
ニ キ シ ヤ キ シ ニ カ ガ ヤ イ テ

Second system of music on page 28. The piano accompaniment starts with a *mf a tempo* dynamic.

ソ ラ ヲ メ ガ ケ テ フ キ ア ゲ ル
シ ブ キ ト ナ ツ テ フ ツ テ ク ル

Third system of music on page 28. The piano accompaniment continues with a *mf* dynamic.

噴
水

First system of music on page 29. The vocal line has lyrics. The piano accompaniment starts with a *p* dynamic and includes a *mf* section.

フ シ キ ノ ミ ツ
ふ し む の み づ

Second system of music on page 29. The piano accompaniment starts with a *f* dynamic and includes *Rea* markings with asterisks.

パ ッ ト オ ホ キ ク ヒ ロ ガ レ バ
さ つ と く づ れ て ふ き ち れ ば

Third system of music on page 29. The piano accompaniment starts with a *mf* dynamic and ends with a *p* dynamic.

イ ケ ノ ヒ ゴ ヒ ガ チ ヨ ツ ト ハ ネ タ
い け の す む れ ん ち ょ つ と ゆ れ た

一三 噴 水

一、金や銀に輝いて、

空をめぐがけてふき上げる

噴水の

ばつと大きくひろがれば

池の鯉が

ちよつとはねた。

二、金や銀に輝いて、

しぶきとなつて降つて来る

噴水の

さつとくづれて吹散れば

池の睡蓮

ちよつとゆれた。

蟲のこゑ

♩ = 80

蟲のこゑ

— ア レ マ ツ ム シ ガ ナ イ テ キ ル
ニ き り き り き り き り こ ほ ろ ぎ や

チン チロ チン チロ チン チロ リン ア レ ス ズ ム シ モ
が ち や が ち や が ち や が ち や く つ わ む し あ と か ら う ま お ひ

ナ キ ダ シ タ リン リン リン リン リン
お ひ つ い て ち ょ ん ち ょ ん ち ょ ん ち ょ ん す い つ ち ょ ん

三三

蟲のこゑ

ア キ ノ ヨ ナ ガ ヲ ナ キ ト ホ ス
あ き の よ な が を な き と ほ す

アア オ モ シ ロ イ ム シ ノ コ エ
あ あ お も し ろ い む し の こ ゑ

一四、蟲のこゑ

- 一、あれ、松蟲が鳴いてゐる。
ちんちろちんちろ、
ちんちろりん。
- あれ、鈴蟲も鳴き出した。
りんりんりんりん、
りいりん。
- 秋の夜長を鳴き通す、
ああ、おもしろい蟲のこゑ。
- 二、きりきりきりきり、こほろぎや、
がちやがちやがちやがちや、
くつわ蟲、
あとから馬おひおひついて、
ちよんちよんちよんちよん、
すいつちよん。
- 秋の夜長を鳴き通す、
ああ、おもしろい蟲のこゑ。

三三

村 祭

♩=84

村 祭

一 ム ラ ノ チ ン ジ ユ ノ カ ミ サ マ ノ
二 と し も ほ う ー ね ん ま ん さ く て
三 ヲ サ マ ル ミ ー ヨ ニ カ ミ サ マ ノ

ケフ ー ハ メ テ タ イ オ マ ツ リ ビ
む ら は そ う ー で の お ほ ま つ り
メ グ ミ ア フ グ ヤ ム ラ マ ツ リ

ドン ドン ヒヤ ラ ラ ドン ヒヤ ラ ラ ドン ドン ヒヤ ラ ラ ドン ヒヤ ラ ラ
どん どん ひや ら ら どん ひや ら ら どん どん ひや ら ら どん ひや ら ら
ドン ドン ヒヤ ラ ラ ドン ヒヤ ラ ラ ドン ドン ヒヤ ラ ラ ドン ヒヤ ラ ラ

村 祭

ア サ カ ラ キ コ エ ル フ エ タ イ コ リ
よ る ま て に き は ふ み や の も り
キ イ テ モ コ コ ロ ガ イ サ ミ タ ツ

一五、村 祭

- 一、村の鎮守の神様の
今日はめでたい御祭日。
どんどんひやらら、
朝から聞える笛太鼓。
- 二、年も豊年満作で、
村は總出の大祭。
どんどんひやらら、
夜まで賑ふ宮の森。
- 三、治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭。
どんどんひやらら、
聞いても心が勇み立つ。

鴨 越

鴨
越

♩ = 120

一 シ カ モ ヨ ツ ア シ ウ マ モ ヨ ツ ア シ
二 つ づ く ゆう し も い つ き たう せ ん
三 ユ ダ ン タ イ テ キ ウ ラ ノ ヤ マ ヨ リ

シ カ ノ コ エ ユ ク コ ノ サ カ ミ 一 チ
ひ よ ど り ご え に つ ー い て み れ は
サ ン ゼ ン ヨ キ ノ サ カ オ ト シ ー ニ

ウ マ ノ コ セ ナ イ ダウ ー リ ハ ナ イ ト
へ い け の ち ん や は ま し た に み え て
へ イ ケ ノ イ チ モ ン オ ド ロ キ ア ワ テ

タ イ シ ャ ウ ー ヨ シ ツ ネ マ ツ サ キ ニ
た た か ひ い ー ま や ま つ さ い ち ゆ う
ヤ シ マ ヲ サ ー シ テ オ チ テ ユ ク

一六、鴨 越

一、鹿も四つ足、馬も四つ足
鹿の越えゆくこの坂路
馬の越せない道理はないと、
大將義経真先に。

二、つづく勇士も一騎當千。
鴨越に着いて見れば、
平家の陣家は真下に見えて、
戦今や真最中。

三、油断大敵、裏の山より
三千餘騎のさか落しに、
平家の一門驚きあわて、
屋島のさして落ちてゆく。

雁がわたる

♩ = 104

雁がわたる

Musical score for the first system on page 38, featuring a vocal line and piano accompaniment in 4/4 time with a key signature of one sharp (F#).

— カ リ ガ ソ タ ル ナ イ テ ソ タ ル
ニ か り が お り る つ れ て お り る

Musical score for the second system on page 38, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

ナ ク ハ ナ ゲ キ カ ヨ ロ コ ビ カ
つ れ は お や こ か と も だ ち か

Musical score for the third system on page 38, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

雁がわたる

ッ キ ノ サ ヤ カ ナ ア キ ノ ヨ ニ
し も の ま し ろ な あ き の た に

Musical score for the first system on page 39, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

サ ヲ ニ ナ リ カ ギ ニ ナ リ
む つ ま し く つ れ だ ち て

Musical score for the second system on page 39, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

ワ タ ル カ リ オ モ シ ロ ヤ
お り る か り お も し ろ や

Musical score for the third system on page 39, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

一七、雁がわたる

一、雁がわたる、

鳴いてわたる。

鳴くはなげきか喜か。

月のさやかな秋の夜に、

棹になり、かぎになり、

わたる雁、おもしろや。

二、雁がおきる、

連れておきる。

連は親子か友だちか。

霜の眞白な秋の田に、

睦ましく連れだちて

おきる雁、おもしろや。

赤とんぼ

♩ = 100

赤とんぼ

Musical score for the first system on page 124. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff (treble and bass clefs). The key signature has one flat (B-flat) and the time signature is 4/4. The tempo is marked as quarter note = 100. The piano part includes dynamic markings *mf* and *mp*.

Musical score for the second system on page 124. It features a vocal line with Japanese lyrics and piano accompaniment. The lyrics are:
一ア キノ ミ ツ スミキツ タ ナガレノ
ニあ きの そ ら きいろ の ゆふ - ひ に
The piano part includes dynamic markings *p* and *p*.

Musical score for the third system on page 124. It features a vocal line with Japanese lyrics and piano accompaniment. The lyrics are:
ウヘヲ アカトンボ ナンビヤクナンゼン
うかぶ あかとんぼ なんびやくなんぜん
The piano part includes dynamic markings *mp*, *mf*, *f*, and *ff*.

赤とんぼ

Musical score for the first system on page 125. It features a vocal line with Japanese lyrics and piano accompaniment. The lyrics are:
ソ ロ ッ テ カ ミ ヘ タ ダ カ ミ ヘ
な ら ん で に し ヘ た た に し ヘ
The piano part includes dynamic marking *mf*.

Musical score for the second system on page 125. It features a vocal line with Japanese lyrics and piano accompaniment. The lyrics are:
ノ ボ ッ テ イ ク ヨ ノ ボ ッ テ イ ク -
な が れ て い く よ な が れ て い く -
The piano part includes dynamic markings *mf*, *dim.*, and *poco rit.*.

Musical score for the third system on page 125. It features a vocal line with two first and second endings and piano accompaniment. The lyrics are:
ヨ - よ -
The piano part includes dynamic markings *a tempo* and *rit.*.

一八、赤とんぼ

一、秋の水

すみきつた

流の上を赤とんぼ

何百何千

揃つて上へ、ただ上へ、

上つて行くよ、上つて行くよ。

二、秋の空

金色の

夕日に浮かぶ赤とんぼ

何百何千

並んで西へ、ただ西へ、

流れて行くよ、流れて行くよ。

取 入 れ

♩=116

取
入
れ

Musical notation for the first system on page 46, including vocal line and piano accompaniment.

一 ハ ル ノ タ ガ ヤ シ ス キ ナ ラ シ
二 ひ よ り つ づ き の き の ふ け ふ
三 ア セ ノ コ ミ ナ ノ ヒ ト ヤ ス ミ

Musical notation for the second system on page 46, including piano accompaniment.

ナ ツ ノ ウ エ ツ ケ タ グ サ ト リ
そ ろ う に お や こ あ に お と と
ハ ナ シ ノ タ ネ ハ タ ツ ラ カ ズ

Musical notation for the third system on page 46, including piano accompaniment.

四六

取
入
れ

Musical notation for the first system on page 47, including vocal line and piano accompaniment.

ホ ニ ホ ガ サ イ タ イ ネ ノ デ キ
み る ま に つ も る も み の や ま
ト リ イ レ ド キ ノ タ ノ シ サ ヨ

Musical notation for the second system on page 47, including piano accompaniment.

ホウ ネ ン チヤ マ ン サ ク チヤ
ほう ね ん ちや ま ん さ く ちや
ホウ ネ ン チヤ マ ン サ ク チヤ

Musical notation for the third system on page 47, including piano accompaniment.

四七

一九、取入れ

一、春のたがやし・鋤きならし、

夏の植附・田草取、

骨身惜しまぬ働に

穂に穂がさいた稲の出来。

豊年ぢや、満作ぢや。

二、日和つづきの昨日今日、

揃うた親子兄弟。

刈つて束ねる、干して扱く。

見る間に積る糶の山。

豊年ぢや、満作ぢや。

三、畦の小路の一体

話の種は俵敷。

やがてめでたく積上げる

取入れ時の楽しさよ。

豊年ぢや、満作ぢや。

麦まき

麦まき

♩ = 126

一 ナ ラ ヤ ク スギ ノ ハ ハ キ ニ ソ マーリ
ニ お や は か へ し て こ は く れ う つ て

ヒ ロ イ タ ン ボ ニ キ タ カ ゼー ア レ ル
ひ ろ い た ん ぼ の む ぎ ま き す ま す

五〇

麦まき

カ ゼ ニ フ カ レ テ ナ マ ツー ナー フ ン テ
や つ と す ん だ と み あ げー るー そ ら に

ケ フー モ ア サ カ ラ セ イ タ ス オ ヤー コ
あ す も て ん き か ゆ ふー ひ が あ かー い

二〇、麦まき

五一

- 一、 楢や櫟の葉は黄にそまり、
廣いたんぼに北風あれる。
風に吹かれて、
なま土ふんで、
今日も朝からせい出すおや子。
- 二、 親は返して、子はくれうつて、
廣いたんぼの麦まきすます。
「やつとすんだ。」と
見上げる空に、
あすも天気か、夕日が赤い。

日本の國

♩ = 100

日本の國

—ニ ホンノクニハ
ニにほんのくには

マツノクニ ミアゲルミネノヒトツマツ
はなのくに うめももさくら ふぢあやめ

ハマベハツツクマツバラノエダブリ
しらつゆむすぶあきののちぐさの

五二

日本の國

スベテオモシロヤ ツケテナニオフ
はなもおもしろや わけてさくらの

マツシマノ — オホシマコジマソノナカ
よしのやま — ひ — とめせんぼん さきみち

ヲ カヨフシラホノウツクシヤ
て かすみかく — もかうつくしや

五三

二、日本の國

一、日本の國は松の國。

見上げる峯の一つ松

はまべはつづく松原の

枝ぶりすべておもしろや。

わけて名におふ松島の

大島小島、その中を

通ふ白帆の美しや。

二、日本の國は花の國。

梅・桃・櫻・藤・菖蒲、

白つゆむすぶ秋の野の

ちぐさの花もおもしろや。

わけてさくらの吉野山

一目千本咲きみちて、

かすみか雲か美しや。

飛行機

♩ = 168

飛行機

Musical notation for the first system on page 56, including a vocal line and piano accompaniment.

一 ト ン ホ ノ ヤウ ニ カ ロ ク ウ
二 と ん び の やう に つ ば さ を
三 マ チ ム ラ ミ オ ロ シ ヤ マ タ ニ

カ ン デ タ カ イ ア フ ゾ ラ
は つ て ひ ろ い お ほ ゴ ら
コ エ テ ク モ フ ス ヒ ツ ツ

五六

飛行機

Musical notation for the first system on page 57, including a vocal line and piano accompaniment.

ケ ル ヒ カウ キ ミ ヨ ア ノ
な る ひ かう き き け あ の
ス ム ヒ カウ キ ア レ ア ノ

1. 2. 3. 1. 2. 3.

Musical notation for the third system on page 57, including a vocal line and piano accompaniment with first and second endings.

五七

三、飛行機

一、とんぼのやうに軽くうかんで、

高い青空ま一文字に

かける飛行機

見よ、あのすがた。

二、鳶のやうにつばさをはつて、

広い大空我が物顔に

うなる飛行機

聞け、あのひびき。

三、町・村見下し、山・谷越えて、

雲をぬひつつまたたく中に

かすむ飛行機

あれ、あの早さ。

豊臣秀吉

豊臣秀吉

♩=104

一ヒヤ タネン コノカタ ミ ダレシ テン カモ
ニ よ りよく を もちひて てう ーせん せむ れば

セ ナリ ベウ タン ヒト タ ビ イツレ バ
は ちだう ー みる まに わ がて に やぶら れ

シ カ イ ノ ナ ミーカゼ タチ マ チ フ サ ー マ リ
こ く (わう) ー か がーや き こ ー く ゐ あ がーり て

豊臣秀吉

ロ クジフ ー ヨ シウ ー ハ ク サ キ モ ナ ビ ク
し ーひやく よ しう ー も を の の き ふ る ふ

ア ア タ イカフ ホウ タ イ カフ
あ あ た いかふ ほう た い かふ

壮大に

三、豊臣秀吉

- 一、百年このかた亂れし天下も、
千なり瓢箪一たび出づれば、
四海の波風忽ち治り、
六十餘州は草木も靡く。
- ああ太閤、豊太閤。
- 二、餘力を用ひて朝鮮攻むれば、
八道見る間に我が手に破られ、
國光かがやき國威あがりて、
四百餘州も戦き震ふ。
- ああ太閤、豊太閤。

冬の夜

♩ = 84

冬の夜

ト モシ ビー チ - カ ク キ ヌ ヌ フ - ハ ハ
ニ ゐ ろ り の - は - た に な は な ふ - ち ち は

ハ ル ノ - ア ソ ビ ノ タ ノ シ サ カ タ ル
す - ぎ し - い く さ の て が ら を か た る

キ ナ ラ ブ - コ ド モ ハ ユ - ビ ヲ - ヲ リ ツ ツ
ゐ な ら ぶ - こ ど も は ね - む さ - わ す れ て

六二

冬の夜

ヒ - カ ズ - カ ズ ヘ テ ヨ ロ コ ビ イ サ ム
み - み を - か た む け こ ぶ し を に ぎ る

キ ロ リ ビ ハ - ト - ロ ト - ロ ソ - ト - ハ - フ - ブ - キ
ゐ ろ り び は - と - ろ と - ろ そ - と - は - ふ - ぶ - き

二四、冬の夜

一、燈火ちかく衣縫ふ母は

春の遊の樂しさ語る。

居並ぶ子どもは指を折りつつ、

日數かぞへて喜び勇む。

圍爐裏火はとろとろ、

外は吹雪。

二、圍爐裏のはたに繩なふ父は

過ぎしいくさの手柄を語る。

居並ぶ子どもはねむさ忘れて、

耳を傾け、こぶしを握る。

圍爐裏火はとろとろ、

外は吹雪。

六三

川中島

♩ = 104

川中島

一チクマ サイガハニ センノ アヒダ
ニか はの せ おとは じ んばの こゑか

カフ エツ ニ ゲンノ センヂヤウ ココカ
み だるる す すきは は たし ものか

カイツノ シロアトワ ヅカニ ノコリ
む かし の え いゆう ー い まは た あらず

川中島

ミ リタ ス カ ギリ ク ハバ タ シ ゲ ル
か た み は の べ に こ け む す ぼ せ き

二五、川中島

一、千曲・犀川二川の間に

甲越二軍の戦場ここか。

海津の城跡僅かに残り、

見渡す限り桑畑しげる。

二、川の瀬音は人馬の聲か。

亂るるすすきは旗指物か。

昔の英雄今はた在らず、

記念は野べに苔むす墓石。

私のうち

♩ = 72

私のうち

一 モ エ ル キ ノ メ ニ ハ ル カ ゼ フ ケ バ ウ
 二 う ち の ま へ に は こ が は が な が れ ふ
 三 ツ ユ ヤ シ グ レ が イ ロ ヨ ク ソ メ タ ウ
 四 ま つ を の こ し て き の は が ち れ ば に

チ ノ マ ハ リ ノ ウ メ モ モ サ ク ラ カ
 ね も う か べ ば あ ひ る も ら か ぶ つ
 ラ ノ コ ヤ マ ニ ア キ カ ゼ フ ケ タ る き
 は は い ち に ち ひ が よ く あ

ハ ル ガ ハ ル ニ ハ ナ サ キ ミ ダ レ ヒ
 り も で き る し お よ ぎ も で き て あ
 キ ノ シ ヅ ク モ お ノ コ ト ナ ツ テ バ
 ん の お さ ら ひ す ま した 後 は

私のうち

ト モ キ テ ミ ル コ ト リ モ ウ タ フ
 つ む い な つ で も も す ず し く マ たら す
 ン ノ ゴ つ ン し ノ た オ カ ズ ニ マ ジ そ
 だ に ゴ つ ン し ノ た オ カ ズ ニ マ ジ そ

二六、私のうち

- 一、もえる木のめに、春風吹けば、
 うちのまはりの梅・桃・櫻、
 かはるがはるに、花咲きみだれ、
 人も来て見る、小鳥もうたふ。
- 二、うちの前には、小川が流れ、
 舟も浮かべば、あひるもうかぶ。
 つりも出来るし、およぎも出来て、
 あつい夏でも、すすしくくらす。
- 三、つゆや時雨が、色よくそめた
 うらの小山に秋風吹けば、
 木木の雫も、きのことなつて、
 ばんの御飯のおかずにまじる。
- 四、松をのこして、木の葉がちれば、
 庭は一日、日がよくあたる。
 本のおさらひすました後は、
 枝につるした、ぶらんこ遊。

かぞへ歌

かぞへ歌

♩=120

一 ヒ ト ツ ト ヤ - - ヒ ト ビ ト チ ユ ウ キ ヲ
ニ ふ た つ と や - - ふ た り の お や ご を

mp

ダ イ イ チ ニ ダ イ イ チ ニ ア フ ゲ ヤ
たい せ つ に たい せ つ に お も へ や

タ - カ キ キ ミ ノ オ ン - - ク ニ ノ オ ン
ふ - か き ち ち の あ い - - は は の あ い

mf mp

かぞへ歌

二七、かぞへ歌

一つとや、人人忠義を第一に、あふげや、高き君の恩、國の恩。
 二つとや、二人のおや御を大切に、思へや、ふかき父の愛、母の愛。
 三つとや、みきは一つの枝と枝、仲よく暮せよ、兄弟・姉妹。
 四つとや、善き事たがひにすすめあひ、悪しきをいさめよ、友と友、人と人。
 五つとや、いつはりいはぬが子供らの、學びのはじめぞ、慎めよ、いましめよ。
 六つとや、昔を考へ、今を知り、學びの光を身にそへよ、身につけよ。
 七つとや、難儀をする人見るときは、力のかぎりいたはれよ、あはれめよ。
 八つとや、病は口より入るといふ、飲物・食物氣を附けよ、心せよ。
 九つとや、心はかならず高くもて、たとひ身分はひくくとも、軽くとも。
 十とや、遠き祖先のをしへをも、守りてつくせ、家のため、國のため。

新訂
尋常小學唱歌
伴奏附

不許複製

第三學年用 定價金四拾錢

昭和七年五月二十四日 印刷
昭和七年五月二十八日 發行

著作權者 文 部 省

發行者 東京市京橋區銀座一丁目五番地
大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 杉山常次郎

印刷者 東京市小石川區久堅町百〇八番地
大橋光吉

印刷所 東京市小石川區久堅町百〇八番地
共同印刷株式會社

發行所 東京市京橋區銀座一丁目五番地
大日本圖書株式會社

振替貯金口座(東京二一九番)電話京橋二七三番二七四番

1927.7.19



広島大学図書

0130449408

